SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

ジオツアー三島61・足柄街道のジオと歴史：東部支部巡検会報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-09-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 増島, 淳 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00027679

東部支部巡検会報告

ジオツアー三島61・足柄街道のジオと歴史

増　島　　淳

地域のジオや歴史に興味を持つ方々を対象に東部支部が毎月実施している「ジオツアー三島シリーズ」は，2011年9月から9年近く継続している．ここでは，今年4月に実施したNo.61の内容を報告する．

ジオツアー三島シリーズは，日帰りで各地を見て歩く（1万5千歩程度）．毎回多数の方に参加いただくため，同じ内容で3回実施している．

今回は4月2日（火）に34名（会員5名・サポーター会員27名・一般2名），6日（土）に14名（会員2名・サポーター会員9名・一般3名），8日（月）に21名（会員3名・サポーター会員12名・一般6名），で実施した．参加費は500円である．

御殿場線・足柄駅に9時40分集合し，約30分間，日程や主な観察場所の説明を9枚の配布資料を見ながら行った．

今回の見どころは，㋐奈良時代から戦国時代まで東海道（官道）として使われた足柄街道を足柄駅から御殿場駅まで歩きながら，㋑約2900年前の富士火山大崩壊による御殿場岩屑なだれ堆積物と，同じく約2万年前の馬伏川岩屑なだれ堆積物（高田ほか，2016）の作る地形の違いを歩いて体験する．㋒富士火山起源の仙石スコリア層（約3500年前）・砂沢スコリア層（約3000年前）・1707年の宝永噴火のスコリア層の観察．㋓1335年12月11日に，新田軍と足利軍が戦った竹之下古戦場の史跡巡り．㋔戦国時代後半に今川・武田・北条が争奪戦を繰り返した深沢城跡の見学．㋕街道沿いの奈良・平安時代の遺跡．㋖駿府城の大御所・徳川家康が江戸に行くための宿泊所「御殿跡」の見学．㋗御殿場岩屑なだれの「流れ山」．㋘伊豆石製の石倉．㋙御殿場名物，天野醤油店の見学．などである．

見学地の位置は地図に示した（図1）．地図に示した番号①～⑯に沿って説明する．

① **足柄駅**　御殿場市域を流域に持つ鮎沢川の河岸段丘上にある．周辺一帯は竹之下古戦場である．「あしがら」は万葉集14巻「東歌」の中にいくつも使われていることを配布資料に示した．「令和」が公表されたので急遽作った資料となる．万葉集では「あしがり」とも呼ばれている．

② **千束橋**（ちつかはし）　竹之下の戦いで，錦の御旗を先頭にして足柄峠目指して攻め登った官軍（新田軍）が敗走し，橋を落としたので，追撃してきた足利軍が薪の束を千束投げ込んで渡ったのが名前の由来とされる（図2）．



図2．千束橋を歩行中の一行．

静岡県三島市栄町3-21



図１．コースと主な観察地点（1/2.5万　御殿場図幅　国土地理院）.

③ **有斗坂**（うとざか）　古東海道の箱根山への入り口にある集落「宿地区」は家々に屋号が掲げられており，往時の宿場の雰囲気が満点である．宿の端にある坂は敗走する官軍と足利軍が激戦を繰り広げたところだとされる．坂を登りきると馬伏川岩屑なだれの堆積面上に出る．

④ **県立小山高校付近**　坂を登りきったところにある．付近一帯は竹之下の戦いでは官軍の陣地があった「陣場」でもある．高校建設時の発掘では，古墳・奈良時代の住居跡が多数検出され「横山遺跡」と名付けられた．日本最古の貨幣「和同開珎」も出土している．古東海道の箱根越えの拠点があったことがしのばれる．ここで一休み，富士山の眺望は見事（図 3）．桜並木も満開であった．



図３．小山高校前からの富士山.

⑤ **上横山遺跡**　大企業の工場建設に伴い発掘された遺跡である．奈良時代の住居跡が多数検出された．当時の古道も二本検出されている．奈良時代の箱根越えの拠点集落はこの付近一帯にあったようである．

⑥ **馬伏川岩屑なだれ堆積物上の地形**　東名高速道の上を越えると，周囲は杉の植林が続く．明治

20年の地形図資料では荒地となっている．約2万年前の岩屑なだれ堆積物や，その上に厚く堆積する富士火山起源のテフラは侵食されやすく，道の両側には深い谷が迫る．約2900年前の御殿場泥流の地形や土地利用との違いを実感できる．道路の切通しでは各所で宝永テフラが観察できる．

⑦ **足柄街道の杉並木と富士火山のテフラ**　蓮華寺あたりから道路の幅がやや狭くなり，歩道も歩きにくくなる．この辺りは足柄街道の拡幅が控えられたため，道路の片側に往時の太い杉の並木が残っている．道路の切通しの小露頭で富士火山起源の仙石スコリア層（約3500年前・発泡の悪い，角ばった，5〜10mmのスコリア）・砂沢スコリア層（約3000年前・発泡していない，3mm程度のよく淘汰されたスコリア）が確認できた．

⑧ **御殿場市営東運動場**　御殿場岩屑なだれ堆積物と馬伏川岩屑なだれ堆積物の境界付近に作られた野球場である．ここを境に東西の景観が大きく変化する．ここで少年たちの草野球を見ながら，観覧席でお昼を食べた．

⑨ **深沢城跡**　馬伏川の支流が合流する地点，二本の川が天然の堀となる地形を利用して作られた戦国時代の城跡である．同地の北は武田領に，東は北条領に接する駿河・今川氏の前線拠点として築城された．1560年に今川義元が桶狭間で戦死した後，南下してきた武田信玄により1568年に攻略された．しかし1570年に北条氏康・氏政親子が3万8千の軍勢で奪取した．しかし軍勢が引き上げると，その年の末に武田軍が再度占領した．1580年の織田・徳川連合軍の武田領侵攻の際，武田勢は城に火をかけて撤退し，徳川方の城となった．しかし，1590年に豊臣秀吉軍が北条一族を屈服させると存在価値がなくなり，廃城となった．城の縄張りは武田流である．三日月堀の跡や各郭跡が観察できる（図4）．城内には，堀を掘削した際に掘り上げられたと思われる，御殿場岩屑なだれ起源の大石が各所に露出している．往時をしのび，皆さん感無量であった．



図4．深沢城跡の三日月堀．

⑩ **大沼鮎沢湖沼群跡**　約2900年前に御殿場岩屑なだれが堆積した下流部には，窪地に湖沼群ができた．東名高速の御殿場インター付近は有名だが，その一つが同地である．現在は水田となっている（図5）．しかし，最近は宅地化が進行しつつある．これより西側の街道沿いは住宅が立ち並び，御殿場駅まで市街化地域が続く．



図5．大沼鮎沢湖沼群跡．

⑪ **天野醤油店**　旧国道246号線が分岐する近くに，知る人ぞ知る（私は知らなかった）醤油製造・販売店がある．ここで一休みとなる．皆さん各種醤油・金山寺みそ・柚餅子などを購入していた．ジ

オツアーの地元への経済効果である．

⑫ **御殿跡**　県立御殿場高校の南に接して約 90m 四方の範囲が御殿跡である．御殿は 1615 年，徳川家康が大御所として隠居していた駿府から足柄を越えて江戸を往来する際の宿泊施設として造営された．跡地の吾妻神社には家康公（東照大権現）も合祀されており，御殿場市の地名の発祥の地である．境内には当時の土塁の一部が残っている．

⑬ **伊豆石製の石倉**　天野呉服店の駐車場内にある．石材は凝灰角礫岩である．高橋豊会員が作製した地質図（高橋，1996）では，沼津市・大平地区に広く分布する「大井凝灰角礫岩」で，新第三紀の海底火山の噴出物となっている．耐火性に非常に優れた石材なので同材を使用した石倉は，三島市内には多数現存し・沼津市・富士市などでも確認できる．御殿場市では初めて見た．同材を使用した石倉の大部分は大正から昭和初期に作られている．当地では文化財としてよいくらい価値があると思われる．なお，街道沿いにあと一棟，同材の倉を改造した建物を確認した（図 6）．



図 6．大井凝灰角礫岩製の石倉．

⑭ **甲州街道への分岐**　三島市や沼津市から甲府へ向かう昔からの「甲州街道は」3 本あるが，それらは御殿場で合流し，ここで足柄街道から分岐し甲府盆地を目指す．内陸と海辺をつなぐ大切な交易路であった．

⑮ **流れ山（二枚橋古墳）**　御殿場小学校の西側に，浅間神社の境内地となっている小さな丘がある．約 2900 年前の御殿場岩屑なだれで崩れ落ちた高まりが残った「流れ山」の一つである．昔は市内のあちこちにあったようだが，宅地造成などで削られ，少なくなった．小山の上には前方後円墳が認められるが，発掘で確認されていないようである．御殿場市内の古墳とされたものは発掘するとただの流れ山の場合が大部分である．境内のあちこちに岩屑なだれ起源の大石が認められる．

⑯ **御殿場駅**　駿河湾に注ぐ黄瀬川と相模灘に注ぐ鮎沢川の分水界に，明治 22 年に開業した御殿場駅がある．駅前の広場には立派な火山弾が置かれている．ジオツアーはここで解散となる．皆さん 3 時頃の電車で帰宅された．

感想

今回のコースは歩道が整備されているので歩きやすかった．1 回の参加者数は 15 人程度に収まると行動しやすい．先頭に私，最後尾に新間会員の配置で行動した．参加者は皆さん協力的なので助かった．配布資料を丁寧に説明すると 1 時間以上かかってしまうので，省略する部分が多かった．

参加者は 60 才以上の方が大部分だった．前職は会社員・教員・土木建築関係者など様々であった．現在は伊豆半島ジオパークのジオガイド，三島市のボランティアガイド，清水町の柿田川ガイドなどをされている方が多い．

約60%は三島市在住の方だが，神奈川県・下田市・熱海市・静岡市から参加される方もおられた．皆さんの熱意で続けることができていると思います．皆様これからもよろしくお願いします．

引用文献

高田　亮・山本孝広・石塚吉浩・中野　俊（2016）：富士火山地質図（第2版）・説明書．特殊地質図12，産総研地質調査総合センター，56p.

高橋　豊（1996）：第2節 地質．伊豆長岡町編，伊豆長岡町誌上巻，33–104.